

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会等で頂いた御意見の概要

1 会の名称

平成 29 年度第 2 回県南広域振興圏地域協働委員会議

2 県側出席者

県南広域振興局、政策地域部政策推進室

3 開催日時

平成 29 年 11 月 9 日（火） 14 時～17 時

4 主な御意見の概要

○ 県民計画の周知について

- ・ 県民計画を多くの県民に知ってもらうためには足を運んで周知したほうが身近に感じるのではないかと。フェイスブック等もよいと思うが、高齢者は見る傾向が少ないと思われる。県民計画の策定について知らない方も多いと思うので、多くの県民が県民計画の策定を知っているという前提でアンケートをとれば結果も変わってくるのではないかと。
- ・ 幸福は大きなテーマで漠然としているが、今までの「希望郷いわて」のフレーズが気に入っており、変わるとすれば残念に感じる。これに負けまい、次期計画においても県民が素敵に思えるようなキャッチフレーズを考えてほしい。

○ 幸福にかかる指標について

- ・ 幸福は概念であり、捉えづらいものである。個人的にはなるものではなく感じるものであると考える。何かに分けるとすれば、出会いとチャレンジの数が死ぬまでにどれだけ多かったかが最大公約数の幸せと言えるのではないかと。岩手で一つの仕事で平穩に過ごしたというよりも様々な人と会って多くのことにチャレンジしたというほうが幸せではないかと言えると思うし、また、その結果として 10 年後に人口が増えていなければならないと考える。岩手だけが人口が増えているとなるのが岩手の価値であると考えている。
- ・ 細かくブレイクダウンした施策に落とす際は、それぞれの施策が掛け算されるような工夫をお願いしたい。
- ・ 幸福という考え方は難しいが、テレビでブータン等のなりたいイメージ的なものがそれぞれあると思う。テレビは高齢者も子どもたちも見ていると思うので、そういうメディア等で幸福のイメージを伝えられたらわかりやすいのではと感じている。
- ・ 幸福の捉え方をどう考えるかは変わっていくと思うので、県民が幸福について考える機会はおもしろいことになるかもしれないと思う。

- ・ 幸福は概念だと思われ、人それぞれ感じ方が違うので、指標の設定は難しいし、それを計画に盛り込むとなったときは慎重に協議しながら作らなければならないと思うところがある。今後、県としての方向性を多くの県民に知ってもらうため、会議や委員会の場を活用したり、県民を対象にしたワークショップを多く開いたりしてもよいのではと考える。
- ・ 岩手に来て生活してみて、付き合いや交流の部分、特に個人的な隣近所や地域のつながりを感じており、ソーシャルキャピタルが高いと実感している。県民意識調査結果の分析では30歳代以下になると地域や近所のつながりを求める傾向が下がっている。10年後はそのような方々が社会の中心となることを踏まえて計画を策定したほうがよい。
- ・ 客観的指標の設定には専門家の意見を吸い上げてもらえるとより良い指標になるのではと思う。

○ 復興との整理について

- ・ 震災から6年経過し、どの時点を復興の着地点とするかが非常に難しいと考える。幸福と両方をかけ合わせて考える大事な検討時期を迎えると感じており、また、それを指し示すのは慎重にやらなければいけないと感じている。
- ・ 幸福について世代間のとらえ方が違うので、世代間の中でセグメントしたうえで幸福感を示すのが大事なのではないかと考える。
- ・ 今までの復興については、主にハード面だと思うが、コミュニティが寸断されたところも多くあり、心の穏やかさを取り戻すまでに時間がかかるという側面もあることから配慮した計画をお願いしたい。
- ・ 人口が増えるかどうかはかなり厳しい状況にあるかと思うが、岩手の場合は都会型、田舎型に区分けされている状況であり、個人情報保護にこだわりすぎて地域が見えていないところもあると思うので、双方に配慮しながら地域を考えた人口減少対策をお願いしたい。